

「鍵穴手術」世界から患者

柏・名戸ヶ谷病院

柏市の中核病院「名戸ヶ谷病院」が、三又神経痛による顔面の痛みや顔面痙攣で苦しむ患者向けに、開頭範囲を最小限に抑える「鍵穴式手術」を導入したところ、海外の患者が手術のため相次いで訪れている。昨秋以降、インドなどの4人が手術を受け、4人が予約済みだ。同病院は「地域の病院」というスタンスを維持しつつ、英語版の入院案内を作るなど訪日患者の対策にも力を入れている。

(木村透)



▲昨年10月に手術したカナダ人女性(中央)。左は井上脳神経外科部長(名戸ヶ谷病院提供)

同病院は昨春、鍵穴式手術を本格的に導入した。脳神経外科の井上靖章部長によると、夏頃には海外からの問い合わせが入り始めた。「世界中の患者がインターネットで情報交換し、クチコミで広がったようだ。羽田と成田に近い点も要因だろう」と推測する。

外国人患者の第1号は、昨年9月に手術したインド人のフリーライターの男性

三又神経痛治療

井上部長によると、三又神経痛は洗顔や歯磨きなどをきっかけに顔面に突発的な強い痛みが走る病気。顔面痙攣では、意図しないのに頬などが痙攣する。痛みはないが、不快なうえ、見

開頭範囲直径2センチ程度に

た目を気にして悩む人も多い。とりわけ、脳幹近くの神経に細い血管が触れ、圧迫することで起きる。薬物療法から始めるが、痛みが軽減せず、副作用に悩まされることもある。

かつての手術は頭蓋骨に直径4〜5センチの穴を開けていたが、鍵穴式手術では直径2センチ程度で済む。6〜7センチ奥にある患部で、神経と血管を分離するという。頭皮の切開も少なくなる。患者の負担は軽くなり、約1週間で退院できる。

英語対応に力

(28)。三又神経痛で痛みが強く、鎮痛剤を服用していた。訪日前に2回手術したが良くなり、仕事も辞めてうつ状態になっていた。

同病院での手術は成功。男性は「快適。新しい人生になった」と喜び、東京タワーや京都を観光して帰国したという。

同病院は翌月、顔面痙攣

で6年も悩んでいたスペイン在住のカナダ人女性(46)を手術した。夏前から、MRI(磁気共鳴画像)のデータや症状の動画を送ってもらい、手術に臨んだという。その後、ニュージールランドの女性ら2人も手術

した。現在はアメリカ、カナダ、香港、ガーナの患者から予約を受けている。

外国人患者の増加を受け、同病院は英語版の入院案内を作成した。院内の案内表示の一部も英語表記にした。国籍や人種、宗教によって食事も調整している。「海外からの評価は光栄だ」。井上部長は率直に語る。

ただ、鍵穴式手術を導入したのは、「地域の患者に最高の医療を」との思いからだった。井上部長は「あくまで地域の病院。世界水準の医療が地元で受けられるとアピールしたい」と話している。